ディベートとディスカッション

ディベートとディスカッションの違い

ディベートの特徴を浮き彫りにするために、ディスカッションとの違いについて考えてみます。ディスカッションでは、最終的に意見が一致することを理想としています。一方、ディベートでは意見の対立を前提とし、争点がわかりやすい議論を展開することを理想としています。

議論を行うという行為は、ディベートでもディスカッションでも見られます。議論という行為の目的が、ディベートの場合は、第三者を説得することであるのに対して、ディスカッションの場合は、当事者間での合意であるというような違いがあります。

ディスカッションにおける議論は、情報を共有することや意見の合意を形成するということを暗黙の目標としているために、論がつくされず、お互いのメンツをつぶさないように配慮をする場合が多いように思います。最終的に誰かが妥協しているというのが現実ではないでしょうか。

では、逆に意見をぶつけ合えばよいかというと、そうとも言えません。議論することには生産的な意味合いがあるという意識を参加者がもっていないと、単なる論争になってしまい、感情的なしこりだけが残るということが多くなります。

それに比べて、ディベートの場合は、意見を対立させることを前提としているだけに、感情的にならずにすみます。考えが全く違うディベートの相手を説得しようとは試みないからです。なまじ考えを変えてもらえるかもしれないという期待感をもって議論するのではなく、相手の意見は変わるわけではないが、ディベートにおける議論のやりとりを聞いている人たちには、自分の考えの正しさを理解してもらいたいという発想でディベートを行えば、感情的になることを抑えることができます。ことディベートにおいては論理的な説得が第一義です。よって冷静な話し方を理想としています。

ディベートはシミュレーション

「わが社は年俸制を導入すべきである」というような新しい政策やシステムを提案する論題の場合、ディベートはシミュレーションだと考えるとよいかもしれません。論題に対する答えがＹＥＳだとしたら、どのような議論を構築できるか。ＮＯだとしたら、どのような議論が構築されるかというように考えます。

つまり、あなたはどっちの立場ですかというような結論そのものではなく、結論に到達するまでの根拠を問題としています。もともと教育ディベートで取り上げる論題には、肯定と否定、どちらの立場の議論、論拠資料も存在するものを選びます。また、宗教的な信条を問うようなものは論題として取り上げることはありません。

論題に対して肯定・否定の両方の立場から準備し、議論をすることにより、複眼的な思考が身につき、物事を大乗的にとらえることができるようになります。会議などでの意見のやりとりにおいては、どのような提案にも反対意見があって当然という気持ちをもち、相反する意見を尊重し、耳を傾けることができるようになります。